

第3学年 進路説明会 資料



次 第

- 1 学校長あいさつ
- 2 進路についての説明
- 3 質疑・応答
- 4 その他

令和4年5月18日

横浜市立岡野中学校

---- 目 次 ----

1	進路を選択するにあたって	1
1.1	はじめに	1
1.2	進路の選択は本人の主体的な判断で	1
1.3	相談できる環境づくり	1
1.4	日々の生活をしっかりと	2
1.5	学力の向上をめざして	2
1.6	ご家庭での留意点	2
1.7	進学先の選び方	3
1.8	職員の体制	4
2	進路決定までのスケジュールと留意点	5
3	中学校卒業後の進路	8
3.1	就職について	9
3.2	職業技術校について	9
3.3	各種学校・専修学校について	9
3.4	全日制高等学校について	12
3.5	定時制高等学校・通信制高等学校につ いて	17
3.6	別科について	18
3.7	高等専門学校(高専)について	18
4	公立高校・私立高校の選抜方法	19
4.1	公立高校	19
4.2	私立高校	21
付 録 (昨年度の資料)			
	資料①	「7 調査書の見本」	
	資料②	「8 面接シートの見本」	
	資料③	高等学校等就学支援金、神奈川県生徒学費補助金	

1 進路を選択するにあたって

1. 1 はじめに

(1) 生き抜く力をつけて自分を高める

進路学習とは、単にどこに就職するか、どの学校に進学するかという問題を取りあげるだけでなく、自分の人生や生き方を考えることです。自分なりの生きがいやスタンスをもって人生を歩むことや、職業のもつ社会的な意味や価値を理解し、自分の夢を実現する職業を選択できるようにするのが進路学習の目標になります。

保護者の皆さまの生き方や人生観が、自然にお子様に影響を与えることがあると思いますが、お子様の成長に伴い保護者もこの点について再考し、子どもとともに考えることができればよいと思います。

(2) 今を頑張るための温かい理解と援助を

中学校卒業後、自分の進路(人生)について、将来的なビジョンをもち、計画的に生活していくことは重要です。とはいえ、中学生で自分の将来について具体的な見通しを持っている人は少ないでしょう。とかくありがちな、「そんなことでいいのか！」式のせまり方ではなく、子供が将来への希望や夢を持てるような助言を親から温かく与えることが大切だといえます。

(3) 目標をもち自分にあった進路選びをするために

近年、高校生の中途退学(進路変更)が問題になっています。「目的意識をもって進学したか」「自分に合っている進路先を主体的に選択できたのか」が問われるところです。生徒が自分にあった進路先を選び、卒業後、生き生きと活動できる場を得られるよう、保護者と教師が連絡を取り合い、援助をしていきたいと思います。

1. 2 進路の選択は本人の主体的な判断で

(1) 主体的な選択を

進路選択の時期が迫ってくると、よく友人の動向が気になって「あの子が行くから私も同じ所に」「入れそうな所を先生が適当に決めてください」とか、「親が言うからそうする」といった決め方をしようとする生徒が見られます。こういう主体性のない決め方で進路を決定した後で、高校や職場に不満を感じ、不適応を起こして中退する、または仕事を辞めてしまうケースがあります。

いろいろな進み方があるにしても、自分の進路ですので、将来の目標に向かって自分自身で選んでいけるようにしたいものです。

【進路選択が自分の力でできるための基本】

- ① 目的意識をしっかりもっている
- ② 自分の適性・性格・興味などを自分でよくわかっている
- ③ 家庭の条件・保護者の意向も理解して十分な話し合いをしている
- ④ 進路先についてよく調べている
- ⑤ 将来の目標達成のための道筋や方法をよく考えている

1. 3 相談できる環境づくり

中学生が「自分の進路を自分で決めろ」と言われても、簡単にはできません。そんなときに、自分の気持ちや悩みを親や先生にじっくり相談できることが大切になります。「親は私のことをわかっているのだろうか」とか、「これは先生に相談することじゃない」などと迷ったり、勝手にあきらめたり、遠慮することなく、早めに本心や不明点を出して解決できるとよいです。意見が食い違うことがあるかもしれませんが、そこを出発点として新たな方向やより良い方向を見つけるようにしたいものです。

1. 4 日々の生活をしっかりと

(1) 3年生としての意識・態度

3年生としてふさわしい意識・態度を保つことが大切です。日ごろの努力の積み重ねの結果として、進路選択が可能となります。

- ① 第三者から見て、中学生らしい清楚な身だしなみ、適切な言葉遣いや対応をする。
- ② 理由のない欠席・遅刻・早退をなくす。
- ③ 周囲に迷惑をかけないように、正しい判断にもとづく行動、良識のある行動をする。

(2) 健康管理と規則正しい生活習慣

学校・家庭で生活のリズムを整え、健康で規則正しい生活習慣づくりを心がけたいものです。

① 学校行事や学級の仕事にすすんで取り組む

仕事に一生懸命、ねばり強く取り組む姿勢は、学習のねばり強さも育てます。また、学級・学校の仲間を思いやる心も大切です。進路については、ありがちな共通の悩みや不安を他の人も持っているものです。共に励まし合いながら、学習・生活・行事をすすめていきましょう。

② 提出物の期日を守る

高校・会社など相手がある進路の手続きに「待った」は一切ありません。期限の厳守はとても大切です。授業にかかわる提出物に限らず、普段から期日を守る姿勢を大切にしましょう。

1. 5 学力の向上をめざして

(1) 日々の授業を大切に

毎日の学校の授業にしっかりと取り組むことが、これから学習をする中で実を結んでいきます。「忘れ物をせず、しっかり授業準備をして臨み、提出物もきちんと出す。」こういう努力で自らの可能性を伸ばしていきましょう。

(2) 今からでも遅くはない

3年生からの学習と、3年間で培った学力が何と言っても重要です。

- ① 1年間の、月ごとの、日々の学習のプランを立て、一日一日を充実したものにしましょう。受検(受験)や卒業まで長いようでも時は待ってくれません。その日にできることは、その日にやる強い意志と実行力を持ちましょう。
- ② 授業に真剣に臨み、積極的に予習・復習をするように心がけましょう。毎日の積み重ねが実を結びます。
- ③ 自分の不得意教科を克服するにはどうしたらよいか、1・2年の基礎の復習をどのようにするのかなど、何に重点をおくのかを考えてみましょう。

1. 6 ご家庭での留意点

(1) 親子での話し合い

- ① 普段から子どもの様子をよく見て、子どもの立場になって話し合いを進めましょう。子どもにまかせきりになるかあるいは、保護者の意見を一方的に押しつけることがないよう、子どもの意見を尊重しながら、生き方もふくめて助言できることが望ましいです。
- ② 子どもの個性・適性・学力・興味を客観的につかみましょ。
- ③ 過度の期待も放任もともに良い結果を招きません。目標実現にむけて、励ましと援助をしましょう。(保護者の大きな期待が子どもには負担になることもあります。)
- ④ 家庭の諸条件(経済状況)も含めて、親子で共通理解ができるようにしましょう。

(2) 担任との密な連絡

「すべて先生にお任せします」とか「うちでは絶対にこうすると決めています」というのではなく、最後の決定に至るまで、担任とは随時、遠慮のない相談・情報交換をしてください。

① 環境と雰囲気づくり

- i. 思いやりや励ましはまず言葉より心で伝わるようにしたいものです。明るい雰囲気づくりも大切にしましょう。
- ii. 保護者自身があせったり動揺したりしては、子どもは不安になります。つねに子どもの視点で冷静に一緒に考えていきましょう。
- iii. 兄弟や保護者自身と比較して、子どもにプレッシャーをかけないようにしましょう。
- iv. 神経が過敏になるときですから、子どもを過度に神経質にさせない配慮は必要です。しかし甘やかしは不要です。

② 固定観念からの脱却

- i. 単純なものさしで、あの学校は「よい」「悪い」などと判断しないでください。学校に行くのは子ども自身です。本人がそこで充実して生活でき、学力を伸ばしてくれれば、「よい」学校ということになります。高校の実態をよく把握する必要があります。
- ii. 生徒と同様に保護者も案内書・パンフレットをよく読み、親子の説明会・体験入学・会社訪問などに積極的に参加し、自分の目で正確に理解しておくことが大切です。
- iii. 受験・就職は単に合格することが目標ではありません。せっかく入学・入社しても続かないケースがあります。入学・入社後のことも考えた志望選択にしましょう。

(3) 真摯な受験を

入学するつもりがないのに「興味があるから受験したい」という受験はやめてください。公立高校は定員分しか合格者を出しませんから、合格後に入学辞退をすると、そのために本当に入学したい生徒がいけなくなるということがおきます。

1. 7 進学先の選び方

(1) 将来の職業を考えること

将来の職業についてある程度、考えがまとまっている場合、志望する学科・分野が自分の希望する職業に合っているかが大切になります。

(2) 自分を知ること

- ① 興味・関心があることは？
- ② 性格は？(1つのことにねばり強いタイプ、次々に好奇心をもつタイプ、行動力はどうか、社会性はどうか……)
- ③ 体力は？(通学距離・時間は大丈夫か)
- ④ 適性・能力は？(知識・技能・学習意欲は十分あるか)

(3) 希望する上級学校について調べること

- ① 学校の特色を知る。 施設、校風、教育方針(特に私立の場合・・宗教に基づく学校か)
- ② 学校の学びを知る。 カリキュラム、どのような学びに強みがあるか、部活動
- ③ 卒業後の進路を知る。 大学等の進学状況(大学附属の場合は、系列大学への進学状況)
- ④ 必要な経費を知る。 入学金・施設費・授業料・実習費・学校債・修学旅行積立金など
- ⑤ 3年間通うことを考える。 通学経路や通学時間、通学方法を知る。
- ⑥ 受験(検)方法を知る。 受験(検)資格や各種手続き、選抜方法、発表、手続きの方法など

1. 8 職員の体制

(1) 情報の提供と相談

進路の選択を決定するのは保護者を含めた本人です。そのため、学校では、進路選択のための情報や資料の提供をおこない、最良の選択ができるよう、援助・相談をすすめます。

(2) 学年職員での検討

生徒一人ひとりについて直接、相談指導にあたるのは担任ですが、3学年の職員はいつも、同一の進路情報に基づき、検討を重ねながら、同一の歩調で生徒に接していきます。

(3) 相談できる雰囲気づくり

生徒とも保護者とも、日頃から何でも話し合えるようにしておきたいと思います。保護者の方も、保護者会のおりには是非ご出席いただき、担任に気軽にお声かけください。

2 進路決定までのスケジュールと留意点

表2-1に今後の進路関係の概略予定と留意事項を示します。

表2-1 進路スケジュール

月	予 定	留 意 事 項
5月	◎進路説明会	
6月	◎☆高校等説明会へ参加 ◎第1回進路希望調査(24~30) ◇中間テスト(23, 24)	高校等説明会 <ul style="list-style-type: none"> ・高校等の説明会への参加し、情報収集をする。 ・今後の進路予定や諸手続の流れを把握する。 ・進路先について具体的に考え、情報収集をする。 ・進学か就職かの大まかな方向性を決める。 ・進路希望調査記入に際し、家庭で生徒の将来についての話し合いを持つ。 以下の方針は定めておく。 <ul style="list-style-type: none"> i 「進学・就職」 ii 進学の場合「公立高校・私立高校・専修学校など」 複数の希望校を挙げる iii 就職の場合「ハローワーク経由・縁故」「定時制受験」 <ul style="list-style-type: none"> ・中間テストで自分の学習状況を把握し不得意教科の克服など今後の対策を立てる。
7月	◎公立高等学校募集案内の発表 ◎三者面談(12~15) ◇夏休み(21~8/28)	高校等体験入学 <ul style="list-style-type: none"> ・公立高校受検の流れや選考基準等を確認する。 ・自分の課題を考えた有意義な夏休みの計画を立てる。 ・夏休みの学習を計画的に進める。 ・夏休みの高校見学の計画を立て、参加する。
8月	◎☆高校等の体験入学など ◇教育相談(28~9/1)	<ul style="list-style-type: none"> ・進路先の研究をする。 ・家庭での話し合いを進める。 (体験入学などではできるだけ参加し理解を深める。) (虫歯などの要治療箇所はできるだけ完治させる。)
9月	◇期末テスト(8, 9) ◎☆高校等説明会へ参加	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な進路先の検討に入る。 ⇒第1希望だけでなく第2、第3の希望も考えておく。多くの選択肢をもって可能性を検討する。 学校名は、公立と私立とも複数校挙げるのが望ましい
10月	◎☆高校等説明会へ参加 体育祭、文化祭公開など有り ◎第2回進路希望調査(7~13) ◇三者面談 ☆専修学校・各種学校募集開始 ☆職業適性検査(就職希望者) △職業相談 ◎受験用証明写真撮影(希望者)	<ul style="list-style-type: none"> ・高校等の説明会に参加して、学校の雰囲気などを自分の目で確かめることが大切である。(決定間際に行くのでは間に合わない場合がある。) ・第2回進路希望調査をもとに、志望する進路を絞り込む。(前期までの成績をもとに進路相談をするので、その後の変更もあり得る。) ・情勢の変化や成績の変動があってもすぐに対応できるように、できるだけ幅広く多くの希望を考えられるとよい。 ・専修学校・各種学校は、第1希望で受験する人はもちろん、第2希望で受験する人も募集期間の早いところが多いので十分注意する。

11月	◇中間テスト (15~17) ◎第3回(最終)進路希望調査 (17~23) ◎△☆面接シート作成、面接練習	<div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright; border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">高校等説明会</div> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な受験校(第1希望、第2希望ともに)と、受験方法(公立なら共通選抜・定通分割選抜、私立なら推薦・専願・併願)を決める。後期中間成績の変動も考慮していくつかの案ができるとうい。 ・公立高校の専門学科や専門コースの受験希望をかためる。学校説明会などに参加して意志をはっきりさせる。 ・就職希望者は、横浜職業安定所で職業適性検査を受け職業相談を行う。(保護者同伴) ・きちんとした髪型、服装で写真を撮る。
12月	◎進路三者面談(1~6) ☆私立高校推薦希望 書類提出(校内手続き) ◎募集要項・願書等 入手 ◎公立志願資格承認申請(校内手続き) ◎志願資格承認申請完了(教育委員会手続き) ☆面接練習および校長面接(私立高校推薦受験予定者)	<ul style="list-style-type: none"> ・面談で私立校の受験希望を決定する。受験校(科とコース)と志願方法(推薦・専願・併願)はこの後変えられないので注意する。従って、この時、公立校のめどを立てておき、それとの関連で私立校を決めることが大切である。 ・私立高校説明会の多くは11月末~12月初旬が最終である。<u>中には受験前に生徒・保護者で説明会に参加することが必ず必要とされる学校もある。</u> ・私立高校の入試要項と願書は生徒本人が高校に出向いて入手する。 ・公立志願資格承認申請は本人・保護者(両親いる場合は両親ともに)とも横浜市内に居住し、市外への転居予定もない人は不要。そうでない人(父親の県外への単身赴任など)は住民票がどう登録されているかなど、家族の現住所をよく確認し、手続きする。
1月	◎面接練習 ☆就職試験開始 ◎出願指導 ☆職業技術校 出願・入試・発表 ☆私立高校 推薦選抜() 出願・面接・発表 ◎公立高校共通選抜 出願(25~27) ☆私立高校 出願(一般・併願・専願) ◇学年末テスト(30、31)	<ul style="list-style-type: none"> ・公立高校の受験について必要に応じ面談をする。 ・受験に必要な書類の準備をする。 ・公立出願書類等は学校が定めた日までに提出する。 ・私立出願は、学校ごとに日時を定めて一斉に行う。合格後の手続きについては、中学校の授業に支障がないように保護者の方に行ってもらうことを原則とする。受験・入学手続きに間違いのないように注意する。 ・総復習をし、実力を高める。 ・出願、入試、発表時の注意と心構えの確認をする。
2月	◎公立高校 共通選抜 志願変更(6~8) ☆私立高校 試験(一般・併願・専願) 発表・手続き ◎公立高校 共通選抜 学力検査等 (14) 面接・特色検査等(15~16) 追検査(22) ☆私立高校 入学手続きの確認 ・3年特別時間割(公立入試後~卒業式) ◎公立高校共通選抜 発表 (28)	<ul style="list-style-type: none"> ・公立校の志願変更は慎重に行う。(必ず相談を) ・ほとんどの私立高校の試験日は2月10日前後に集中している。学校によって違うのでしっかり確認すること。発表は受験後1~2日がほとんどである。 ・私立高校を第一希望として受験する場合、他の私立高校の重複受験を認めていない学校もあるので確認を必ずすること。 ・公立出願後の受験辞退は受験辞退届を提出する。 ・インフルエンザ等に罹患した場合に追検査を受検することができる。 ・発表は本人が、手続きは保護者が行うことを原則とする。 ・公立高校の発表に伴い、私立高校の併願校の手続きを行う。保護者が行うことを原則とする。

		<ul style="list-style-type: none"> ・卒業へ向けての準備と義務教育のまとめに、しっかりと取り組むことが大切である。
3月	<p>☆私立高校 二次募集</p> <p>◎公立高校 定通分割選抜 出願(2・3)</p> <p>◎公立全日制 二次募集 出願(2・3) (一部の定時制を含む)</p> <p>◎公立高校 定通分割選抜 志願変更 (6～7)</p> <p>◎公立全日制 二次募集 志願変更 (6～7)</p> <p>◎公立全日制二次募集 学力検査等 (9)</p> <p>◎新型コロナウイルス感染症にかかわる対応として実施する追加の検査 (9)</p> <p>◎公立高校 定通分割選抜 学力検査・面接・特色検査(10・13)</p> <p>・卒業式(14)</p> <p>◎公立全日制 二次募集 発表 (15)</p> <p>◎新型コロナウイルス感染症にかかわる対応として実施する検査の発表 (15)</p> <p>◎公立高校 定通分割選抜 発表 (17)</p> <p>◎公立定通 二次募集 出願(22・23) (一部の定時制を除く)</p> <p>◎公立定通 二次募集 志願変更 (24)</p> <p>◎公立定通 二次募集 検査 (27)</p> <p>◎公立定通 二次募集 発表 (29)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・私立二次募集は年度や学校によるが、あっても若干名の募集がほとんどである。 ・公立高校の定通分割選抜および全日制二次募集の受検資格は、この時点で、いずれの高校にも合格していないことが条件である。通常、倍率は高くなる。(合格した高校を辞退して受検することはできない。) ・公立高校の定通分割選抜と全日制二次募集は、どちらか一方にしか出願できない。 ・公立全日制二次募集は、欠員が出た学校で行われる場合がある。 ・公立校の志願変更は慎重に行う。(必ず相談を) <ul style="list-style-type: none"> ・義務教育の修了を迎えるとともに、新しい進路先へ向けての心構えをしっかりと持つことが大切である。 ・発表は本人が、手続きは保護者が行うことを原則とする。 ・発表は本人が、手続きは保護者が行うことを原則とする。 ・卒業式後の手続きとなるので、担任または中学校と連絡確認をしながら洩れないように行う。 ・公立定通二次募集は、欠員が出た学校で行われる場合がある。 ・公立高校の定通二次募集の受検資格は、この時点で、いずれの高校にも合格していないことが条件である。(合格した高校を辞退して受検することはできない。) ・公立校の志願変更は慎重に行う。(必ず相談を)

3 中学校卒業後の進路

図3-1に、今後の中学校卒業後の進路系統図を示します。

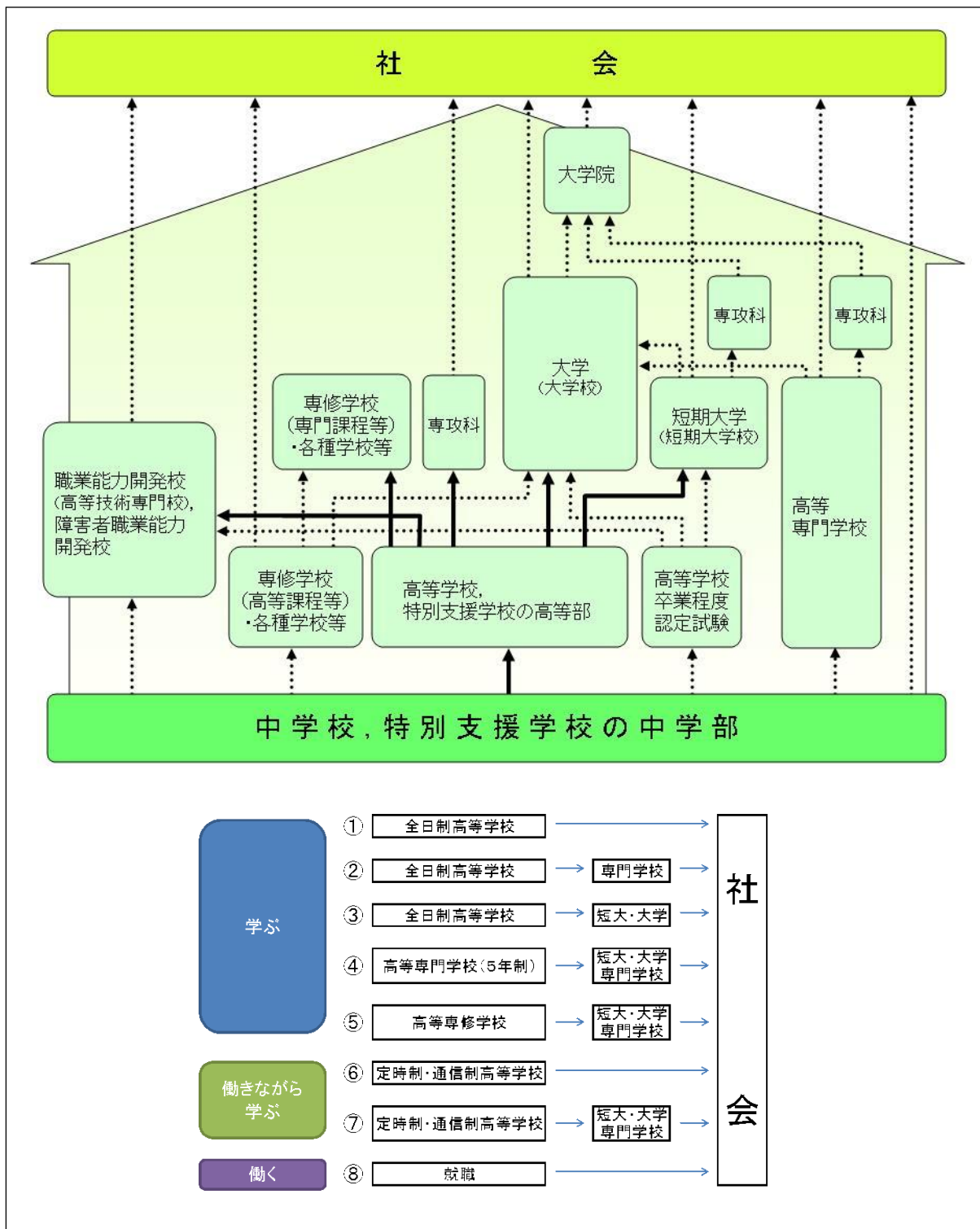


図3-1 中学校卒業後の進路系統図

3. 1 就職について

(1) 特色

自分の適性や家庭の事情などを考えて就職を希望し、仕事を生きがいとして生活していこうとする生徒に対して、中学校としても指導にあたります。実社会に出ることで、想像した以上に様々な経験を積むことができ、大いに勉強になります。また、なによりも、社会人として認められ、経済的にも自立することが期待できます。職業についての経験を多く積むことができ、早くから、いわゆる手に職をつけることができます。

(2) 事業所の選び方

就職は進学と違い早い時期に決定しなければなりません。10月には公共職業安定所で職業適性検査を受け、中学校で作成した職業相談票を公共職業安定所に提出します。その後、中学校に送られる求人一覧表を検討し、保護者、先生や職業安定所の担当者と相談しながら、自分の希望や適性などを考えて、条件の合う事業所を探すこととなります。条件に合う所や条件に近い所があれば、実際に見学させてもらうことになります。

採用試験は、1月上旬から行われます。職業相談票の検討、面接が主となりますが、事業所によっては、健康診断、筆記試験(学科、常識問題、作文など)や職業適性検査を実施するところもあります。毎年、1月上旬の採用試験で多くの採用者を決めてしまうため、高校などに不合格の後、就職するというのは選択の幅が狭くなります。(定時制高校に通える条件の事業所を探すことが困難な場合もあります。) また、雇用条件や給与、定時制高校への通学の条件などをはっきりさせるために、知人の紹介などによる就職の場合でも、職業安定所を通して手続きを進めたり、決定したりすることが大切です。

3. 2 職業技術校について

(1) 特色

職業技術校では、職業に必要な基礎的な知識と技術を教えています。就職を少し先へのばして、まず技術を身につけてからという生徒には適しているといえます。期間はコースにより6ヶ月・1年・2年で、短期課程は授業料が原則無料です。その他教科書代や実習費用などがかかる場合があります。

校名	分野(コース)	主に若年者対象
東部総合職業技術校 (横浜市鶴見区)	・コンピュータ組み込み開発 ・自動車整備	・電気 ・建築設計 ・造園 など
西部総合職業技術校 (秦野市)	・自動車整備 ・ICT エンジニア	・精密加工エンジニア ・木材加工 など

(2) 応募・選抜方法

コースにより募集期間や入校時期は異なります。4月生(後期)の場合は、申し込み期間が1月上旬と早く、選考方法は原則として、筆記試験(国語・数学)と面接になります。

3. 3 各種学校・専修学校について

(1) 各種学校

- ① 修業年限は3ヶ月～1年程度、年間授業時数が680時間以上であることが定められています。対象者に限定はありません。
- ② 職場や家庭で役立つ実用的な知識・技能を身につけることができます。
(分野 → 和洋裁、簿記、珠算、理容・美容、英会話など)

(2) 専修学校

- ① 専修学校には、高等課程、専門課程、一般課程とあり、中卒者対象のものを高等課程専修学校といいます。また、高卒者対象のものは、専門課程専修学校(専門学校)といい、他に一般人対象の一般課程専修学校もあります。修業年限は課程により1年～4年です。
- ② 職業人としての専門的な技能や資格を身につけることができます。
(学科→工業技術、理容、美容、調理、情報、商業、経理、服飾、洋裁など)
- ③ 専修学校・各種学校の学費は、平均的な私立高校と同じか、やや高めとなります。
(実習費の費用が高いため)

(3) 3年制高等専修学校

- ① 上記(2)の専修学校のうち、3年制の高等課程(3年間での総授業時数2590時間以上)を持つものをいいます。
- ② 卒業と同時に大学受験資格が与えられます。また、高卒でないと受けられないさまざまな職業資格試験も受験できます。高卒者を対象とする専門学校への進学も可能です。
- ③ 技能連携校になっている高等専修学校では、広域通信制高校と連携した教科授業を行うことで卒業時に連携先の高等学校の卒業資格が得られます。**(高校技能連携制度)**ただし、学費は2校分かかることとなります。
- ④ 学科は工業技術、調理、情報、ビジネス、デザイン、ファッション、服飾などで、専門学科高校よりも専門科目の時間が多く、実習を中心に技術の習得をはかることとなります。好きな事を伸ばしたい人に向いている学校です。

近辺の主な専修学校

学校名	学科	所在地	修業年限	昼夜
岩谷学園高等専修学校	メディア・情報科 ☆◎	西区	3年	昼
専門学校神奈川総合大学校 高等課程	工業技術学科 ☆◎	厚木市	3年	昼
	生活造形学科 ☆◎			
横浜デザイン学院	デザイン科 ☆◎	西区	3年	昼
	国際コミュニケーション科 ☆◎			
生蘭高等専修学校	総合ビジネス科 ☆◎	綾瀬市	3年	昼
大和商業高等専門学校	総合ビジネス科 ☆◎	大和市	3年	昼
横浜調理師専門学校	調理師科	神奈川区	1年	昼
			1年半	夜
ヨコスカ調理師専門学校	調理師本科	横須賀市	1年	昼
	調理師普通科 ☆◎		3年	昼

備考) ◎は技能連携で高校卒業資格取得の可能な学科 ☆は大学入学資格が付与される学科制度が変わることがあります。最新の情報を確認してください。

(4) 通信制高校補習校(サポート校)

- ① 通信制高校に在籍する生徒のために、高校の科目の補習やレポート作成の援助を行い、3年間で高校卒業の資格が得られるように生徒の支援をする民間教育機関です。
- ② 生徒はサポート校と通信制高校に同時入学することになります。サポート校では個人に合わせた学習支援を展開すると共に、高校の補習だけでなく芸術・大学進学などのコース学習を用意しているところもあります。

近辺の通信制高校補習校

校 名	学 科	所在地	修業年限
横浜アカデミー高等部	全日制一般コース ○	神奈川区	3年
聖進学院	普通, 個別 音楽, 福祉 ◇	神奈川区	3年
KTCおおぞら高等学院	ウィークデイコース ツデーコース サタデイコース ◇	西 区	3年
第一高等学院	高認コース 高校コース ◇	神奈川区	3年
クラーク記念国際高等学校	全日制コース 通信制コース ◇	西区	3年

備考) ○は単独の技能連携校 ◇はサポート校

制度が変わることがあります。最新の情報を確認してください。

3. 4 全日制高等学校について

主に平日の昼間に学習します。通常の修業は3年が基本です。設置者は国立、公立(県立・市立)、私立の3通りで、学科は、

普通科・・・中学校教育を発展させ、より高い一般的な教養を身につけることを学習の主なねらいとする。

総合学科・・・普通科の内容と専門学科の内容を単位制によって生徒が選択して学ぶ。

専門学科・・・一般教養と専門科目を学習し、学年が進むに連れて専門科目の学習が多くなる。専門的な職業人の育成を主なねらいとする。

の3学科となります。

卒業後の進路は、普通科や総合学科からは上級学校(大学、短大、専門学校)に進学する者の割合が多いです。製造・流通などの専門学科からは就職する者が多めですが、専門学科から関連する上級学校に進む者も増えていて、高校側も個々の進路希望に応じられる指導をしています。ほとんどが進学希望という専門学科もあります。

(1) 公立高校の学科

普通科・・・共通教科の科目を中心に学ぶ学科です。

- (1) 学年制普通科・・・中学校と同じように、ほとんどの科目についてクラス単位で学び、1学年ずつ進級していきます。各学校では特色に応じた選択科目も設置しています。

近辺の学年制普通科の高校

神奈川県立の高校

横浜平沼、横浜翠嵐、保土ヶ谷、城郷、岸根、港北、上矢部 など

横浜市立の高校

桜丘、戸塚、金沢、南

川崎市立の高校

川崎、橘、高津、幸

○通教指導・・・通級による指導は、障害等により支援が必要な生徒に対し、大部分の授業を通常の学級で受けながら、一部の授業について一人ひとりの状況に応じた、より適切な指導や必要な支援を受ける指導形態です。また、障害による学習上または生活上の困難を改善、克服するための指導が行われます。設置されている学校は保土ヶ谷、綾瀬西、生田東です。他の学校の生徒で通級による指導を希望する場合は、横浜修悠館で行われています。

○インクルーシブ教育推進実践校・・・共生社会の実現をめざし、知的障害のある生徒が高校教育を受ける機会を広げながら、全ての生徒が共に学び相互に理解を深める教育に取り組み、社会性、思いやりの心を育てます。また、将来の自立に向けて、学校生活に積極的に取り組む意欲に応えます。城郷、上矢部、霧が丘の3校が横浜市内で指定されています。この制度を利用する場合は、他と選抜の方法が異なります(インクルーシブ教育実践推進校特別募集)。

※インクルーシブ教育実践推進校特別募集を受検する場合は、希望する学校の3つの連携事業に参加することが条件になります。例年春～秋に説明会が終わってしましますので、希望される方は担任の先生に早めに相談をしてください。

○クリエイティブスクール・・・これまで以上に学習への意欲を高め、「わかる授業」の展開や、「実体験からの学び」を推進するため、1クラス30人以下での展開等の新たなしくみを導入しています。

県内のクリエイティブスクール

神奈川県立

田奈、釜利谷、大楠、大井、大和東

○専門コース・・・普通科目の学習を主としながら、コースに関する専門的な科目を3年間で10～20単位程度学習します。特定の分野をより深く学習できます。県内には横浜市立戸塚高等学校普通科音楽コースがあります。

○単位制普通科・・・学年の区分がなく、3年間で必要な単位数を修得することで卒業できます。普通科目を中心に、幅広い分野にわたって設置される特色ある選択科目の中から学習します。生徒自らが時間割を組み立てる学校【タイプA】と年次ごとの学びが中心となる学校【タイプB】の2種類の学校に分かれます。

☆フレキシブルスクール・・・【タイプA】の中でも、一人ひとりの生活スタイルや学習ペースに合わせて学習ができます。1日8時間や12時間の授業展開から、午前・午後・夜間それぞれの時間帯から選択できる柔軟なシステムです。

近辺の単位制普通科の高校

神奈川県立の高校

タイプA

神奈川総合、川崎、厚木清南

(☆フレキシブルスクール校 ⇒ 川崎、厚木清南)

タイプB

横浜旭陵、横浜桜陽、横浜栄、三浦臨海、藤沢清流、平塚湘風、小田原、相模原青陵、横浜清陵、横浜緑園、大師

☆その他、横浜市立東高校もあります。

*例えば・・・

『神奈川総合』は、個性の発見と伸長を目指す「個性化コース」と語学・国際理解科目を中心に学習する「国際文化コース」とがあります。いずれも生徒自身で時間割を作ることになります。

総合学科

幅広い普通科目と専門科目の中から各自が科目を選択して、単位制のしくみによって学びます。また、生徒は基本的な科目以外は、個性や進路に応じていくつかの系の中から科目を選択します。体験的な学習や実習を重視した授業展開がおこなわれています。原則として全員が入学年次に「産業社会と人間」という科目を学びます。

総合学科の高校（昨年度の例）

高校名	選択科目系列
県立鶴見総合	国際文化、造形・表現、情報・ビジネス、環境科学、健康・福祉
県立金沢総合	人間・福祉、社会、文化・スポーツ、自然・環境、情報、国際
県立麻生総合	情報ビジネス、健康福祉、人間社会、自然環境、表現創造、地域国際
県立藤沢総合	生活科学、環境科学、人間科学、ビジネス、生活福祉、人文国際
県立秦野総合	生涯スポーツ、造形表現、自然環境、生活福祉、人文国際、情報科学
県立座間総合	国際コミュニケーション、自然と科学、人文と社会、情報ビジネス、ライフデザイン
県立相模原総合	人文芸術、情報数学、自然科学、国際文化、スポーツ福祉、社会科学
横浜市立みなと総合	文化・生活、科学・社会、国際、情報、ビジネスマネジメント
横須賀市立横須賀総合	国際人文、生活・福祉、芸術、ビジネス、自然科学、体育・健康、情報、工学

専門学科

将来のスペシャリストとして必要な専門的知識・技術の基本を身に付けるため、専門科目を25単位以上学習します。また、専門的な学習をとおして、さまざまな資格取得をめざすこともできます。なお、同じ学科でも学校ごとに特色が異なります。

(1) 全日制による専門学科（各学校により学科は異なります）

専門性の高い科目（専門科目）を、普通科や総合学科に比べて多く学び、将来のスペシャリストをめざします。ほとんどの科目についてクラス単位の授業や実習を通じて学び、1学年ずつ進級していくので、着実に専門性が身に付きます。

農業（平塚農商、相原、中央農業）

- ・食品科学科（食品の製造と化学分析）
- ・園芸科学科（野菜・花・果物などの育成）
- ・農業総合科（農畜産物や食品の流通と会計）
- ・畜産科学科（家畜の飼育）
- ・環境緑地科（庭園・街路などの生活環境の設計） など

工業（神奈川工業、商工、磯子工業、川崎市立川崎総合科学など）

- ・機械科（製品を作る機械の基本と応用）
- ・電気科（発電機、モーター、コンピュータ、テレビ、電話、電気鉄道などの仕組み）
- ・化学科（プラスチック、薬品、洗剤、セラミックなどの製造・開発・分析）
- ・建設科（住宅ビルなどの建造物や防災・エネルギー・空調システムなどの計画設計）
- ・デザイン科（製品のデザイン、新聞・ポスター・テレビなどの情報の視覚化）
- ・総合技術科（工業全体の基礎を学んだ後、自分にあつた分野の先端技術を学ぶ） など

商業（商工、横浜市立横浜商業、川崎市立幸など）

- ・商業科（売買などの商業活動や事務など広く商業について）
- ・総合ビジネス科（商業の基礎基本）
- ・ビジネス教養科（商業の基礎基本）
- ・スポーツマネジメント科（スポーツに関する知識や技術＋スポーツを通じた商業）など

家庭（川崎市立川崎）

- ・生活科学科（家庭経営、被服、食物、住居、保育）

看護（二俣川看護福祉）

- ・看護科（看護の知識と実習、卒業後、看護系大学・短大をめざす）

福祉（二俣川看護福祉、津久井、川崎市立川崎）

- ・福祉科（福祉・介護などの学習と実習）

理数（川崎市立川崎総合科学）

- ・科学科（数学・理科の重点学習、理工系大学へも進学）

体育（厚木北、川崎市立橘）

- ・スポーツ科（体育・スポーツの実技と理論、審判資格取得）
- ・スポーツ科学科

美術（白山、上矢部）

- ・美術科（美術大学進学、創造的な技能の向上）

国際（横浜市立横浜商業、川崎市立橘）

- ・国際科（国際感覚の修得、コミュニケーション能力の伸長）

（２）単位制による専門学科（各学校により学科は異なります）

単位制のしくみをいかしながら専門科目を学び、将来のスペシャリストをめざします。複数の学科を設置している学校では、違う分野の専門科目を学べる学校もあります。

水産（海洋科学）

- ・海洋科学科（海洋生物、海洋食品、機関、航海など、および乗船実習）

舞台芸術（神奈川総合）

- ・舞台芸術科

理数（横浜市立横浜サイエンスフロンティア）

- ・理数科（科学的思考力や分析力の伸長）

国際（横浜国際、横須賀明光）

- ・国際科（国際感覚の修得、コミュニケーション能力の伸長、IB資格の取得）

美術（相模原弥栄）

- ・美術科

音楽（相模原弥栄）

- ・音楽科

スポーツ（相模原弥栄）

- ・スポーツ科学科（体育・スポーツの実技と理論）

総合産業（神奈川総合産業）

- ・総合産業科（科学、環境、バイオ、国際、情報、工学の専門的な知識の習得）

★公立高校は「県立高校改革実施計画」により大きく変更になっていることがあります。必ず最新の情報を確認してください。

(2) 私立高校の学科（神奈川県内及び、一部都内の学校について）

普通科

・普通科・・・中学校教育を発展させ、より高い一般的な教養を身につけることを学習の主なねらいとしています。

また、普通科のなかにさまざまなコースを開設している学校もあります。

○普通科のコースの例（学校によりコースの設定は異なります。）

特別進学コース・・・主に難関大学や国公立大学進学等の大学進学を目標。

選抜コース・・・主に大学進学を目標。

総合進学コース・・・大学進学や専門学校、就職など幅広い進路実現を目標。

専門学科

・一般教養と専門科目を学習し、学年が進むに連れて専門科目の学習が多くなります。専門的な職業人の育成を主なねらいとしています。

商業分野

・商業科、情報科、経済情報科、情報ビジネス科、情報経済科、ビジネス科

工業分野

・機械科、電気科、建築科、科学技術科、工業化学科

家庭分野

・家庭科

音楽分野

・音楽科

英語分野

・英語科、国際語科

体育分野

・体育学科

総合分野

・総合科

★その他、総合学科など特色のある学校もあります。

(3) 公立高校と私立高校の特色のちがい

公立高校の特色

- ① 特色ある高校づくりが進み、新しいタイプの高校が次々に誕生しています。基礎的な科目は全ての高校で同じように学びますが、さらに生徒の興味・関心・進路希望に応じた科目が用意されています。
- ② 男女共学が原則です。
- ③ 1つの選抜に対して1校のみ受検できます。
- ④ 神奈川県内の県立高校・横浜市立高校から自由に選択して志願できます。（ただし、川崎市立高校の普通科は学区外受検となり、入学許可人数は定員の8%以内となります。）
- ⑤ 選抜は、神奈川県教育委員会が定める「募集要綱」で統一されています。

私立高校の特色

- ① 学習内容は公立・私立の違いはほとんどありません。私立校は設置者が民間の個人・団体なので、それぞれ特色を出していて、たとえば、宗教を根幹において教育を行っている学校もあります。
- ② 学校の「校風や伝統」、独特の「教育方針」をよく理解したうえで志願することが必要です。
- ③ 大学・短大などつながりがある、成績次第で優先入学できる学校もあります。しかし、大学附属高校であっても全員がその大学に進学するとは限りません。その高校の卒業後の進路状況などもよく確認しておく必要があります。
- ④ 神奈川県外を含めどこでも受験できます。
- ⑤ 男子校・女子校・共学校の別があります。
- ⑥ 各校により出願の条件が異なります。また、選抜の方法や受験教科も異なります。出願の条件に成績以外に欠席・早退・遅刻、及び生活面や人物を見る学校が多いです。
- ⑦ 補習や習熟度別授業など学力向上や資格取得に向けた支援・指導をきめ細かく行う学校も多くあります。

- ⑧ 一般的に設備が整っている学校が多いです。行事・部活動も盛んで、スポーツや文化活動で高いレベルを誇る学校も多くあります。

3.5 定時制高等学校・通信制高等学校について

(1) 定時制高校

- ① 修業年限は4年(夜間)で、高校卒業の資格が得られます。また、選択科目を多めに受けることができ技能審査合格や大検合格を単位認定する高校では、本人の努力により、3年で卒業することも可能です。
- ② 働きながら高校の学習ができることを設置のねらいとしており、様々な環境・職種・年齢の人たちが共に学習できるよう、ていねいな学習指導と、豊かな人格形成を目標としています。
- ③ 昼間には定職を持ち、しっかりした生活設計のもとに、粘り強く学び続けていこうとする強い意志が求められます。
- ④ 最近は特定の時間帯で昼間などに授業を行う「多部制の定時制高校」が増えてきています。
- ⑤ 夜間定時制の日課【例】

0校時	16:45～17:25	・他に部活動・生徒会活動・学級活動もあります。
学活	17:30～17:35	
1校時	17:35～18:15	・体育大会・球技大会・定期テスト・文化祭・遠足など、学習内容だけでなく、行事についても定時制高校は全日制高校とほぼ同じです。
2校時	18:15～18:55	
夕食	18:55～19:15	
3校時	19:20～20:00	
4校時	20:00～20:40	
学活	20:40～20:45	
5校時	20:45～21:25	

- ⑥ ほとんどの定時制高校は公立です。東京都内には数校ですが、私立定時制高校があります。神奈川県内の公立高校については、選抜の方法は神奈川県内の公立高校はすべて同じ条件で行われます。ただし、次の定時制高校は共通選抜のみで、定通分割選抜はおこなわれません。

多部制定時制、特別募集（在県外国人等、海外帰国生徒、インクルーシブ教育実践推進校）

横浜市内の公立定時制高校 【昨年度の例】

定時制（普通科）	県立横浜翠嵐 県立希望ヶ丘 横浜市立戸塚
定時制（専門学科）	県立神奈川工業(機械・建設・電気)
単位制による定時制(総合学科)	県立磯子工業

多部制定時制	県立横浜明朋（単位制） 相模向陽館（単位制） 横浜総合（単位制総合学科）
--------	---

※3年で卒業可能な学校は、通常の科目にプラスして単位を取得する必要があります。詳しくは、各高校の先生にご相談ください。

（２）通信制高等学校

- ① 公立では修業年限は3年以上で基本は4年です。全日制と同様の高校卒業の資格が得られます。神奈川県内の公立高校は横浜修悠館と厚木清南の2校のみです。横浜修悠館は次年度より他校通級指導が始まります。
- ② 通信教育では働きながら高校の学習ができます。家庭での自学自習をもとにして、各人の適性或事情に応じた学習を進めることができます。月2回程度の登校と課題提出(郵送)と年2回程度の試験を通して学習します。他に特別活動への出席が必要です。
また、県立横浜修悠館高校では、平日の昼間に登校して学ぶ講座や、ITまたは日曜を活用して学ぶ講座も用意されています。
- ③ 私立は3年間で卒業できる通信制高等学校がほとんどです。週2日以上（学校によっては毎日）学校に通い、学習内容も学習時間も行事も全日制高校とほぼ同じに行っています。生徒の個性とペースに応じた授業や体験学習を行っているところもあります。
- ④ 企業内に通信制高等学校と提携した学校を設置し、働きながら毎日学べるようにしているところもあります。
- ⑤ 専修学校と技能連携している通信制高校もあります。（広域通信制高等学校）

近辺のおもな私立通信制高校

【昨年度の例】

日々輝学園高校横浜校（都筑区）	クラーク記念国際高校(西区)
星槎国際高校(緑区)	八州学園高校(神奈川区)
あずさ第一高等学校（神奈川区）	神村学園高等部（中区）

3.6 別科について

横浜市立横浜商業高等学校別科

- （１）理容師および美容師の養成を目的にした専門性の強い学校です。教養高く専門知識・技能に優れた理容師および美容師の養成を目的としているため、在学する生徒の年齢層もさまざままで、修業年限数は2年です。ただし、高等学校別科を卒業すると理容師・美容師の国家試験の受験資格がえられますが、高等学校卒業の資格は得られません。
また、近年中学からの受検者は少なく、受検内容も難しく合格者も希少です。

3.7 高等専門学校(高専)について

- （１）専門技術者の養成を目的に、5年間の一貫した専門教育を行っています。卒業後は就職、大学3年への編入、専攻科（2年間）への進学などがあります。

近辺のおもな高等専門学校

【昨年度の例】

サレジオ工業高専（町田市）	※1都立産業技術高専（品川区・荒川区）
国立東京工業高専（八王子市）	

※1 高等専門学校のため、神奈川県内の公立高校を受検することができます。

4 公立高校・私立高校の選抜方法

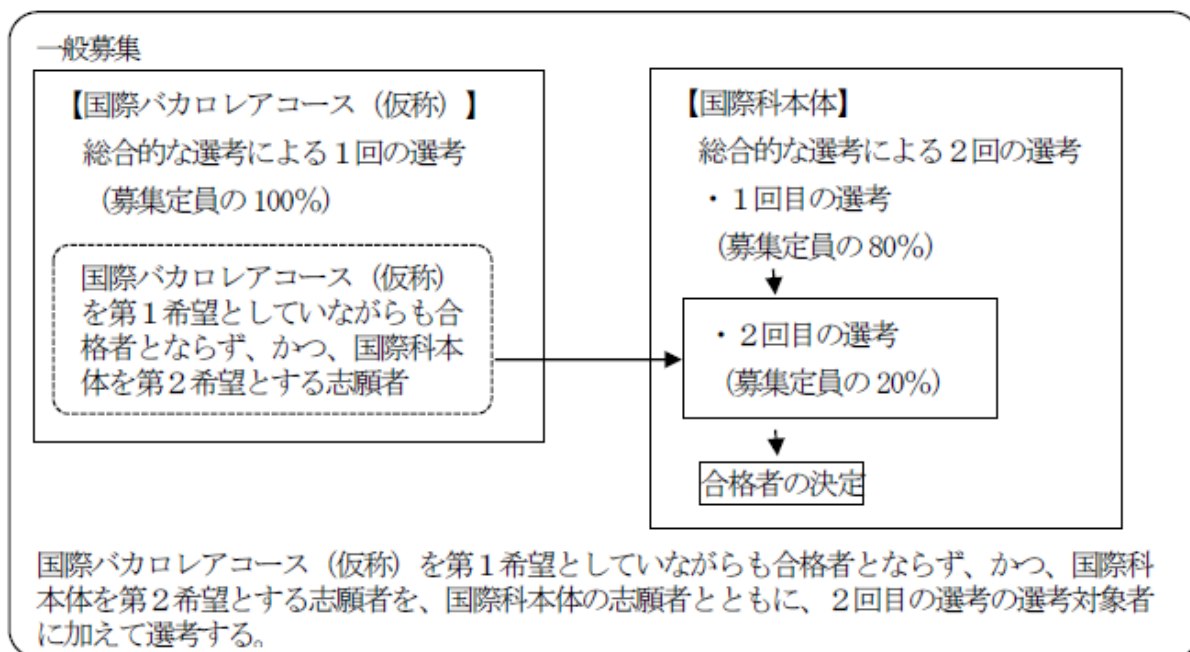
選抜方法は年ごとに、若干の変更が行われることがあります。本年度の募集案内(選抜要項)を必ず確認するようにしてください。

4.1 公立高校

(1) 選抜の機会と選考方法（神奈川県立横浜国際高等学校を除く）

	全日制	定時制	通信制	
共通選抜の機会	募集	募集人員は募集定員の100%とします。	募集人員は募集定員の80%とします。 ※ 夜間以外の定時制は募集定員の100%とします。	
	志願	ひとつの課程・学科・コース等に志願します。志願変更ができます。志願には願書と面接シート等を提出します。		
	検査	【共通の検査】(*1)(☆) 学力検査(原則5教科)・面接 ※ 特色検査を実施する場合は3教科にまで減じる場合があります。	【共通の検査】(☆) 学力検査(原則3教科)・面接 ※ 理科・社会を実施する場合があります。	面接または作文
	選考	特色検査(実技検査・自己表現検査)を実施する場合があります。 【第1次選考】 募集人員の90%まで、調査書の評定(2・3年)(*2)と実施した検査の結果をもとに定められた数値算出の方法(※)で選考します。 【第2次選考】 調査書の評定を用いずに、実施した検査の結果をもとに募集人員まで選考します。(*3)		調査書と実施した検査の結果をもとに総合的に選考します。
☆ 共通の検査の学力検査(外国語(英語))においては、全日制・定時制ともにリスニングテストを実施します。				
特別な設置趣旨の学校について				
*1 クリエイティブスクール(県立田奈高等学校、県立釜利谷高等学校、県立横須賀南高等学校の普通科、県立大井高等学校、県立大和東高等学校)は、学力検査を行いません。				
*2 クリエイティブスクールは、調査書の評定は使わず、観点別学習状況を活用します。 フロンティアスクール(県立横浜明朋高等学校および県立相模向陽館高等学校)でも、調査書の評定は使わず、必要に応じて観点別学習状況を活用し総合的に選考します。				
*3 県立横浜国際高等学校では選考方法が異なります。10ページの基本事項Q&Aや19ページの選考基準を参考にしてください。				
<二次募集> 欠員がある場合、必要に応じて実施します。				
定分割選抜の機会	募集	共通選抜の募集人員を差し引いた人員を募集(共通選抜の募集人員を満たしていない人員も加えます。)		
	志願	ひとつの課程・学科に志願します。志願変更ができます。志願には願書と面接シート等を提出します。		
	検査	【共通の検査】 学力検査(3教科)・面接	面接または作文	
	選考	特色検査を実施する場合があります。 調査書の評定(2・3年)と実施した検査の結果をもとに定められた数値算出の方法により選考します。		調査書と実施した検査の結果をもとに総合的に選考します。
【共通選抜の二次募集】 学力検査(3教科)を実施し、面接を行う場合もあります。調査書と実施した検査の結果をもとに総合的に選考します。				
【定分割選抜の二次募集】 定時制は面接、通信制は面接または作文を実施します。調査書と実施した検査の結果をもとに総合的に選考します。				

(2) 選抜の機会と選考方法 (神奈川県立横浜国際高等学校)



国際科本体は、第1次選考は募集定員の80%です。第2次選考は、国際バカロレアコースで合格とならず、本体を第2希望とした志願者と合わせて募集定員の20%を決定します。

国際科国際バカロレアコースの志願者は、本体を第2希望とすることができます。選考は1回のみで募集定員の100%を決定します。合格とならず、国際科本体を第2希望とした場合は、本体の第1次選考で合格とならなかった志願者と合わせて第2次選考で合格者を決定します。

★海外帰国生徒特別募集では選考方法が異なります。希望者は担任にご相談ください。

(3) 選考に供する各数値の算出 (※ 数値算出の方法)

共通選抜の数値の算出

学習の記録：第2学年の9教科の評定合計+第3学年の9教科の評定合計の2倍(135点満点)を100点満点に換算します。(a)

- ・ 教科ごとの「第2学年の評定+第3学年の評定の2倍」の点数を2倍まで重点化する学校があります。[3教科まで]

学力検査：実施した検査の合計点を100点満点に換算します。(b)

- ・ 教科の得点を2倍まで重点化する学校があります。[2教科まで]

面接：観点ごとの点数を合計し、100点満点に換算します。(c)

特色検査：観点ごとに評価し点数化して、100点満点に換算します。(d)

「学習の記録(評定)」の比率をf、
「学力検査」の比率をg、
「面接」の比率をh、
「特色検査」の比率をiとします。

次の式により合計数値S1(S2)を算出し、選考資料とします。

【第1次選考】 ※ 募集人員の90%までを選考します。「資料の整わない者」については、参考にできる資料を活用して選考します。

$S1 = (a) \times f + (b) \times g + (c) \times h + [(d) \times i]$ 特色検査を実施した場合に加算します。

f, g, h, i は学校ごとに設定します。(f, g, h はそれぞれ2以上で合計10となる整数, i は5以下の整数)

【第2次選考】

$S2 = (b) \times g + (c) \times h + [(d) \times i]$ 特色検査を実施した場合に加算します。

g, h, i は学校ごとに設定します。(g, h はそれぞれ2以上で合計10となる整数, i は5以下の整数とし、第1次選考とは異なります。)

※ 数値算出の方法

調査書の評定 (A)・学力検査の得点 (B)・面接の結果 (C) をもとにします。

それぞれを 100 点満点に換算した (a)、(b)、(c) を各学校が定めた比率 (f、g、h) で合計数値を算出します。

合計数値 $S = (a) \times f + (b) \times g + (c) \times h$ (f、g、h は 2 以上の整数とし、 $f+g+h=10$ となるよう設定します。)

特色検査を実施した場合は、その結果 (D) を 100 点満点に換算した (d) を加えます。

合計数値 $S = (a) \times f + (b) \times g + (c) \times h + (d) \times i$ (i は 5 以下の整数とします。)

◎ 第 2 次選考では (a) 点は使用せず、 $g+h=10$ となるように比率 (g、h、(特色検査を実施した場合は i)) を改めて設定し算出します。(*3)

4.2 私立高校

(1) 選抜資料

学校により、多様な方法をとっていますが、一般には、

●調査書<2・3年の学習成績、特別活動・行動の記録>

神奈川県内・都内の学校では、生徒の日々の学習の達成度が判断できる資料として調査書の成績をかなり重視して選抜するところが多いです。また、中学校での日常生活の状況や特技を加味する場合があります。

●学力試験<大部分の学校が、国語・数学・英語の3教科>

調査書と面接が良好で、かつ入学試験でも相応の点が取れるようにしなければなりません。特にその学校にとって基本的な問題や重要な問題は必ずできるようにしておきたいものです。オープン入試(一般入試ともいう)では学力試験の点数は大きく合否を左右します。

●面接<身だしなみ・言葉遣い・意欲・目的意識・態度・性格など>

面接では、将来の目的・高校でやりたいことなどをはっきりと言えることが大切です。(保護者同伴で面接を行う学校もあります。) また、面接の時間以外でも生徒の行動・態度を見られているので、見学时、学校訪問時、願書提出時、入試当日の廊下・待合室など、さまざまな場所で、それにふさわしい態度や言葉遣いができるよう、日頃から良い習慣を身につけることが大切です。

* 音楽科(芸術)コースの入試には音楽の実技テストがあります。あらかじめ、その学校の実技講習会などに参加しておくのが良いでしょう。

* 学校により、選抜の方法はさまざまなので、必ず、募集要項等で確認してください。

* 新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために長期の学校休業期間があった関係で試験範囲が例年と変わる可能性があります。必ず各校の募集案内を確認してください。

(2) 志願と選抜の形式

推薦

ある一定の学力水準を有し、本人もその学校を希望し、学校長が人物・意欲等において適切と認めれば、志願できます。中学校長による推薦書が必要です。入試の学科試験を省き、調査書と面接のみで選抜されます。(面接の他に作文や簡単な実技を加えるところもあります。)

他校を受けることはできません。合格したら必ず入学することが条件です。

- ① 推薦受験では、その高校の生徒になるにふさわしい学習面と生活面の備えが必要であることは言うまでもありません。高校側の求める人物像、行動面・学習面の規範に合致していることが重要となります。
- ② 入学後は3年間、推薦生徒にふさわしい学業と活動の務めを果たし、立派に卒業していく

ことが期待されます。

専願・併願

【専願】

ある一定の学力水準を有し、その私立高校のみを志願する方法で、他の公立校・私立校には志願せず、その学校に合格した場合、必ず入学することが条件となります。（「単願」とも言います。）

【併願】

ある一定の学力水準を有し、公立高校等を志願しながら、その私立高校にも志願する方法です。**志望順位が上位の学校が不合格でその私立が合格なら、必ずその私立校に入学することが条件**となります。

他の私立高校と併願する場合は、併願制度や延納措置が利用できない学校があります。

- ① 私立高校では併願者より、専願者の方が合否に関して多少有利になる場合が多くなります。（専願と併願の受験者を区別しない学校もあります。）
- ② 併願者に対して、公立発表まで、入学金その他の納付金を一部(中には全額)待ってくれる学校もあります。（詳しくは各校の募集要項等を参照してください。）

オープン入試

出願をする際の学力水準等の条件は特になく、学力試験や面接、調査書などから総合的に合否を判断します。一部の学校では併願と同様に他の公立高校等の発表の後まで手続きを待ってくれる学校もありますが、多くの学校は手続きの締め切りが専願と同様に発表後数日のことが多いようです。

受験のタイプ	筆記試験	他校受験	中学校長推薦
推薦	原則なし	不可	必要
専願(単願)	あり	不可	不要
併願	あり	可(一部他の私立高校と不可)	不要
オープン入試	あり	私立校何校でも可、公立校可	不要

(3) 私立高校出願の注意事項

- ① 推薦はもちろんのこと、専願・併願でも日常生活の習慣がしっかりできていることが求められます。学校によっては、理由のはっきりしない欠席・遅刻が多いと志願が難しいことがあります。
- ② 推薦・専願・併願は**高校側と中学校側の信頼関係に基づいた制度**であり、オープン入試(一般入試)の受験者よりも多少有利となります。12月の面談で推薦・専願・併願での志願先を決めた後、中学校側は高校側と相談をするので、その後の変更はできません。
- ③ いくつかの私立高校で行われているオープン入試(一般入試)は、当日の入試に大きな比重をおいて選抜を行う制度で、他にどんな公立校・私立校を受験しても一切かまいません。この選抜方式の合否は、当日の入試での得点に左右されるので、合否を予測することが難しいです。

志望する私立高校を選ぶときには担任とよく相談し、そこを第1志望としたいのか、公立高校を第1志望としたいのかを考え、志願の形式(推薦・専願・併願・オープン入試)を決めましょう。

(4) 私立高校の日程と手順

【願書】

願書は、各自で高校まで取りに行きます。窓口、郵送における願書の提出(出願)は、中学校で定めた日に学校から行きます。インターネットによる出願の手続きを行う学校の場合は、各ご家庭で手続きを進める必要があります。

【入試期日】

推薦入試は1月下旬、専願・併願は昨年度の場合2月10日以降でした。

(学科試験と面接で2日間にわたる場合もあります。)

【合格発表】

入試の当日～翌々日頃です。発表の方法は学校の窓口、インターネット、郵送が多いよう
で
す。インターネットによる発表の後に通知が郵送または窓口に取り取りに行く必要がある場
合
があります。

【入学手続】

合格後の手続きは、保護者が責任をもって行ってください。書類をよく読み、必要なものを用意し、指定の日時に遅れないようにしてください。手続き期間中に手続きをしないと、入学はできません。